



令和7年度 学校経営計画

1 学校教育目標

勤労・自治・向上の校訓のもと、知・徳・体の調和のとれた人間の育成と社会の有為な形成者の育成を教育目標とする。教育方針は次のとおりである。

- (1) 健康な心身を育成し、情操豊かな人間性を養う。
- (2) 責任を重んじ、自主自律の精神と社会性を養う。
- (3) 思考力と判断力を培い、実行力を養う。

2 学校の特徴

- (1) 本校は、大正9年に富山県中新農業学校として開校し、幾多の変遷を経て平成9年に総合学科が設置され、平成31年度に100周年記念式典を挙行了た。
- (2) 教育課程は2年次から生徒の進路や興味・関心に応じて6分野（人文国際、自然科学、グリーン、スポーツ科学、福祉健康、情報ビジネス）に分かれ、進路実現に向け少人数学習を展開している。
- (3) 進路先は例年、就職35%～40%程度、専門学校40%～45%程度、短大・四年制大学20%～25%程度の割合で構成される。
- (4) 生徒会執行部に所属する生徒は40名前後と多い。ボランティアサポーターに登録する生徒数は70名を超え、地域ボランティアに参加する生徒数は100名近くおり、各地の行事に積極的に参加する生徒が多い。
- (5) 特色ある部活動として、ボクシング、空手道、ダンス、ウェイトリフティング、弓道、グリーンなどがあり、全国大会で活躍することを目標に活発に活動している。

3 学校の現状と課題

(1) 現状

- ① 基本的生活習慣が確立されるよう生徒指導は全職員で取り組んでいる。学校の雰囲気は全体的に落ち着いているものの、粘り強い指導が必要な生徒もいる。
- ② 学校生活の目標が見つからず卒業後の進路がイメージできない生徒がいる。そのため、キャリア教育の一環として、上市町や上市町にある事業所と連携した上市高校職業プログラム「職業を知る会」「職場見学」「インターンシップ」「キャリバイト」に取り組み職業観を養っている。
- ③ 地域と連携し多岐にわたる団体との活動やボランティアなど、さまざまな活動を通じて社会貢献活動に参加している。
- ④ デジタル教科書などを活用し、生徒が理解しやすく興味をもてる授業に取り組んでいる。また、生徒がタブレットPCを用いて主体的に学習に取り組む方法について、互見授業等の教員研修を実施している。

(2) 課題

- ① 基本的生活習慣の確立には家庭の協力が不可欠で、学校と保護者が連携し規範意識が高まるような取り組みが必要である。
- ② キャリア教育は一定の成果があるものの、生徒の職業観を育成するには生徒が主体となって社会にチャレンジできる機会を作っていく必要がある。
- ③ 学校行事や部活動、ボランティア活動、課題研究等を通じて、物事に進んで取り組む力（主体性）や現状を分析し目的や課題を明らかにする力（課題発見力）など必要なコミュニケーション能力を向上させていく必要がある。
- ④ 効果的な進路指導を行うために、教員の進学や就職に関する知識を高める必要がある。また、基礎学力を向上させるには生徒の理解度の把握と対策が必要であり、基礎学力テストなどに関する指導者の分析力を高め、面接や教科指導を通して生徒へ還元していく必要がある。

4 学校教育計画

項 目		目 標・方 針 及 び 計 画	
1	学習活動 重点1	目標	①一人ひとりが基礎学力を身に付け、自分の進路や適性に応じて幅広い選択科目の中から、自分で科目を選択し学べる教育課程を編成する。 ②社会と連携・協働し、新しい時代に求められる資質・能力を育む「社会に開かれた教育課程」を実現する。 ③教員が生徒の実態を踏まえ、授業に学び直しを組み入れ、<u>基礎学力の確実な定着を図る</u>とともに生徒が高等学校段階の学習に円滑に移行できるようにする。 ④総合的な探究の時間で、地域・企業の課題をテーマとした起業学習等の探究活動を通して、問題解決能力を育成する。 ⑤ICT機器を使用し確かな学力を養い、学習の興味・関心を高める。
		計画	①以下の2つの観点で教育課程を検討する。 ・生徒の学力や適性、進路希望等を把握し、実態に即しているか。 ・総合選択科目において、分野の特徴を生かしているか。自由選択科目において、生徒が希望通りに選択できるか。 科目選択説明会や担任との面談、決定までの日程など、生徒が適切に科目を選択できるような、より良い仕組みを検討する。 ②生徒の実態を踏まえつつ、新しい時代に求められる資質・能力や、社会との連携・協働について検討し、本校の魅力を高める。 ③生徒が達成感を感じながら「学び直し」が行えるよう、「学び直し」を年間行事に位置づける。基礎力診断テストを全学年で実施し、義務教育範囲の定着状況等を確認する。また、その結果をもとに各教科での<u>授業改善</u>につなげる。課題等の提示方法を工夫し、生徒が手帳を活用して見通しをもって学習に取り組めるようにしたり、個に応じた学習方法や内容改善を行ったりする。 ④2年次には講師を招聘し、地域・企業課題の改善・解決法について取り組ませる。その準備として1年次に「人間関係スキル」学習や「地域を知る」体験学習、起業に関する学習（講演会）を進める。 ⑤ICT機器を活用し生徒が「主体的に学べる」授業を模索し、パソコン・タブレット端末を使った双方向型授業やWEB授業に関する研修を行う。
2	学校生活 重点2	目標	①<u>基本的生活習慣の確立</u>を図る。 ②<u>社会に必要な礼節を身に付け、思いやりをもって行動できる生徒を育成</u>し、地域社会に貢献する活動を支援する。 ③心身の健康に関する意識の向上を図る。 ④環境衛生を良好に保つ取組みを行う。 ⑤日々の生活の中で、自己も他者も尊重する心を養う。
		計画	①遅刻防止指導、問題行動の未然防止・早期対応、玄関前指導、校外・校内巡視 ②挨拶、身だしなみ、公共マナー指導・携帯・スマートフォンの使用方法に関する指導や講話（交通安全、スマートフォン、制服着こなし、薬物乱用防止等）の実施 ③生徒の健康状態の確認と学校医と連携した保健管理を図る。面接週間などを充実させることで、生徒理解及び悩みを抱える生徒の早期発見につなげる。また、生徒の変化に注意し、援助が必要な場合は、学年・保護者との連携を密にし、保健厚生部やスクールカウンセラーとの面談を実施する。随時、ケース会議を設け、個別に支援を必要とする生徒の共通理解を図る。また教職員の教育相談に対する意識及び技術向上のため研修会を設ける。 ④清掃担当場所の共通理解を図り、清掃用具の点検、美化週間の計画を行う。さわやか委員会が実施するさわやか運動、クリーン活動を支援する。 ⑤挨拶、服装、時間厳守、清掃といった規範意識と思いやりが、自他の尊重に結びついているということに気づけるよう指導する。相談室だよりの中で、人との関わり方について紹介する。

3	進路支援 重点3	目標	①生徒の <u>主体的な進路の実現を支援</u> する。 ② <u>キャリア教育を推進</u> し、適切な進路選択ができる力を養う。 ③保護者との連携等支援体制を確立する。
		計画	①総合的な探究の時間で小論文・作文力を育成する。きめ細やかな面接指導を行って目標を具体化させ、主体的及び能動的に取り組む意欲を高める。 ②インターンシップ・職場見学等進路行事への参加をすすめる。県外進路研修、インターンシップ、オープンキャンパス等への参加を通して進路選択の視野を広げる。 ③各学年、進路希望に応じた面接指導の充実を図り、保護者会などを通じて協力体制を整える。奨学金制度について保護者を含め1年次から説明を行う。
4	特別活動 重点4	目標	①行事や部活動の目的を理解させ、各自の役割を遂行する態度や人間関係を健全に育成する。 ② <u>放課後活動、課外活動に積極的に参加</u> する機会を作り、自己達成感を育む。 ③読書活動を通して、幅広い知識と教養を身に付けさせ、豊かな情操を培わせる。
		計画	①各種行事への主体的な取り組みを支援する。（体育大会・学園祭等） ②校外活動（ボランティア活動、地域交流等）の参加数を増やす。 <u>部活動への積極的な取り組み</u> を促す。 ③「朝の読書」に取り組む意識を向上させ、読書活動の定着を図る。図書館の環境を改善し、資料の利用の活発化を図る。さまざまな広報活動や教養講座・秋の読書会の運営、校外図書選定等、図書委員の自主的な活動を支援する。
5	地域との連携 重点5	目標	①学校・家庭・地域間との連携・交流をさらに深める。 ②PTA活動の活性化を図る。 ③ <u>外部への情報発信の充実</u> を目指し、迅速で正確な情報伝達に努める。
		計画	①保護者や地域の方々に学校教育活動や学校行事の参加を促すとともに、生徒や職員が地域の行事・ボランティア活動に積極的に参加する。行政や企業等が集まるハッピー上市会とも連携する。 ②PTA行事や研修内容を充実させるとともに、アンケート実施や連絡・案内等を工夫することにより、会員相互の連携を一層密にする。 ③あんしんメールや、本校のホームページ、インスタグラムを活用し、効果的な情報発信に努める。

5 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和7年度 上市高等学校アクションプラン — 1 —			
重点項目	学習活動		
重点課題	基礎学力の定着に向けた教科指導等の改善		
現 状	一昨年度までの取り組みをふまえ、昨年度も引き続き授業の中で「学び直し」を実施したことや全学年で基礎力診断テストを実施したことで、以下の結果を得た。 ・学び直しに大事だという意識をもって取り組んだ1年生は92.4%で、意欲的に取り組んだのは84.6%だった。 ・D3生徒の割合は、1年生で44.4%から37.1%、2年生で45.6%から25.2%と減少してきた。また、この結果を職員間で共有し、各教科においての課題を検討した。 ・本校の生徒に必要な「社会人基礎力」を各教科で検討し、それらを授業で指導する方向性とした。 各教科において、授業の指針とすべく年間指導計画に「学び直し」を盛り込んで計画し、実施している。		
達成目標	①「学び直し」に対する意識の向上	②基礎力診断テストの結果の検討	③授業における「学び直し」の定着
	・学び直しに「やりがい」や充実感を感じる生徒の割合を60%以上にする。	・基礎力診断テストの結果を教育課程委員会や職員会議で検討し、授業改善につなげる。D3の生徒を減少させる。	・各教科で指定した授業の年間指導計画に「学び直し」を明確に位置づけ、学び直しの効果としてGTZがAからCまでの生徒数が増加するようにする。
方 策	・「学び直し」の内容や進度についてアンケートを実施し、生徒に「学び直し」の意義を意識させる。	・進路指導部と協力し、基礎力診断テストの結果を各会議に提出する。	・「学び直し」を行う講座の年間指導計画に、義務教育範囲の学習内容と実施時期を設定し、提出してもらう。
	・授業中に単元テスト等を実施し、生徒が分かる喜びやできる喜びを感じられるようにする。	・義務教育範囲の得点率の変化やD3の生徒の割合を全教員が把握できるように情報提供する。	・実施状況を各教科会議で検討する。
			・本校の生徒に必要な「社会人基礎力」について検討する。

令和7年度 上市高等学校アクションプラン — 2 —			
重点項目	学校生活		
重点課題	①基本的生活習慣の確立 ②学校生活および社会生活への適応		
現 状	①「基本的生活習慣の自己管理」「身だしなみを整える」「公共のマナーを守る」等を指導重点として規律と秩序ある校風作りを進めている。 ②通学駅や玄関前での挨拶や服装指導を行っているが、コミュニケーションをとることが苦手な生徒や制服を着崩している生徒が見られる。 ③SNSに起因した人間関係トラブルが増加傾向にある。意識啓発に努めるとともに、適切な指導を早期に行っていく必要がある。		
達成目標	①②年間の遅刻生徒回数の減少に向けて、生徒の意識改善を促す指導の充実	③携帯電話の使用ルールなど違反者（ルール違反・ネットパトロールによる指導）の指導件数の減少	
	①②前年比10%の減少	③前年比10%の減少	
方 策	①②遅刻回数が多い生徒には、5分前に着席完了できるように生徒の自己管理と意識改善を促す。毎朝、玄関前指導を通じて挨拶を交わしながら生徒とのコミュニケーションをとる。さらに、進路指導と絡めて、社会人としての在り方を考えさせ、生徒主体の指導体制を工夫し、生徒の内面的な成長を促す。		③生徒理解と家庭との連携に努めている。教育相談の充実や教職員間の共通理解と連携強化がさらに必要である。生徒がいじめ等のトラブルや犯罪に巻き込まれないようにするとともに、学習への悪影響を防ぐため、生徒・保護者の意識の改善を図る。

令和7年度 上市高等学校アクションプラン - 3 -

重点項目	進路支援		
重点課題	生徒の職業観を早期に育て主体的に進路先を探していくための情報提供と進路指導		
現 状	①進路目標の設定が遅れる生徒はしっかりとした職業観を育てていく必要がある。 ②県内外進路研修、インターンシップなど多くの進路学習が行われているが、生徒は受動的であり、個々の活動を系統的に生かし、進路意識を高めていくことが必要である。		
達成目標	1 学年 ①進路研究を深めるため、県内を中心とした体験的行事に積極的に参加させる。 ②県内等の体験的行事に年2回以上参加した生徒の割合30%以上	2 学年 ①就職希望者のうち、インターンシップに参加する生徒の割合80% ②専門的な技術を必要とする学科に進学する生徒のうち、インターンシップに参加する生徒の割合60%	3 学年 ①第一希望の進学合格率と就職内定率90%以上 ②国公立への進学者数を前年度より増やす。
方 策	①ー1 上市高校キャリア教育プログラムの「職業を知る会」「職場見学」「インターンシップ」「キャリバイト」に多くの生徒が参加することで、早期に職業に触れ、職業観を育成していく。 ①ー2 北陸の大学や医療系の学校の入試難化や、学校推薦型選抜を含め多様化が進む入試システムに対応し、入試関係の情報を随時、生徒・保護者に提供する。 ②ー1 高校生の求人動向は、近年良い方向にある。さらに生徒の求職活動を十分に支援するために、企業の採用情報を的確につかみ、情報提供に努める。 ②ー2 オープンキャンパスや各種施設見学など、体験的な学習への参加を生徒に勧め、受験への意欲付けや就職後のギャップを減らす。 ②ー3 教職員の進路研修の一環として、主に進学実績のある大学・短大等の学校説明会や入試説明会への参加を勧める。		

令和7年度 上市高等学校アクションプラン - 4 -

重点項目	特別活動	
重点課題	ボランティア活動、異年齢交流や部活動を通しての学校生活の充実	
現 状	①校内外の行事に対して生徒会執行部は活発だが、一般生徒の意識はそれほど高くない。令和6年度のボランティアサポーター登録数77名で、学校で把握しているボランティア活動に参加した者は延べ人数92名であった。また、希望しても無断で欠席するなど活動意欲が不十分な生徒も見受けられる。 ②令和5年度より新入生の部活動を希望制とすることで、意欲的な部活動を行いやすい環境を整えた。しかし、それでも部登録はしているが活動していない生徒や、安易に退部する生徒も多く見られた。継続して部活動を行っている生徒は全体の70%程度である。また、全学年平均70%程度の生徒が、やりがいを感じて最後まで継続して部活動に取り組みたいと答えている。	
達成目標	①ボランティア等の校外活動の参加数 延べ人数 150名以上	②部活動にやりがいを感じ最後まで継続したい生徒の割合 80%以上 (12月にアンケート実施)
方 策	①生徒会及び各種委員会と連携を図りながら、活動の輪をひろげる。また、地域交流や校内外でのボランティア活動、クリーン活動、家庭クラブ活動に対する広報活動を促進し、主体的に参加することへの意欲を高める。	②新入生の部活動参加を希望制とすることで意欲のある者達の活動を目指す。部活動の必要性や魅力を理解させ、体力や技術、意識の向上とともに人間的な成長と個性の伸長を実感させ、学校生活の充実を図る。また、部長会議を前期後期各2回以上実施し、状況把握を行うとともに、必要な対策を行う。

令和7年度 上市高等学校アクションプラン - 5 -

重点項目	地域との連携
重点課題	外部への情報発信の充実
現 状	①令和6年度より公式インスタグラムを開設し、HPと併用して学校の様子を発信している。 ②あんしんメールを活用し、保護者に対して各種案内を行っている。 ③総合学科の特性を始めとする本校の魅力について、地域や各中学校への理解をより進める必要がある。
達成目標	生徒や教職員による公式インスタグラムの投稿を定期的に行い、閲覧の機会を増やす。
	投稿回数の平均 毎週1回
方 策	・生徒（生徒会）主導による記事の投稿を推進する。 ・保護者会や学校説明会、地域の行事やボランティア活動においてインスタグラムのPRを行う。